



★ ★ ★ ★
COLUMN

That's so American!!

ノースカロライナ州から
さまざまな医療にまつわる出来事を紹介

第18回 医療倫理の重要性 ～法規制が追いつかない場合の対応策～

ノースカロライナ州メディケア・カウンセラー
アメリカ病院経営士会認定病院経営士 薬剤師（日本）河野圭子

昨年12月、米国最大手の医療保険会社ユナイテッド・ヘルスケア社のCEOが銃撃され死亡する事件が発生し、同社をはじめ米国の医療保険制度の問題点が浮き彫りとなりました。本稿では、保険会社による治療の事前承認問題を用いて医療倫理の重要性を考察します。

事前承認が頼みの綱

米国では、患者さんが非緊急の治療を受ける際、医療機関は事前に保険会社の承認を得なければなりません。承認が得られないと、治療費は支払われません。ユナイテッド・ヘルスケア社をはじめ、保険会社はAIを活用して承認プロセスを自動化しており、27%の申請が不承認となっています。不承認の場合、再申請は可能ですが、それでも不承認なら保険は適用されません。

一方で、有保険の患者さんが不承認を受けた場合や自費で治療を受ける場合、保険契約に基づく価格は適用されず、医療機関が定めた診療報酬が適用されます。このため、アフォーダビリティの問題から、多くの患者さんが治療を先送りせざるを得ません。現行制度では、保険会社による事前承認制度の法的枠組みが不十分であり、また自費で検査を受ける場合でも、医療機関が自由診療価格を請求する制限はありません。

どこで歯止め、制限をかけるか

現在、放送大学の海外受講モニターとして「共生のための技術者倫理」オンライン講座を受講しており、事前承認制度と自由診療価格の制限に関する重要なヒントを得ました。それは、「新技術の導入により、従来の法規制が適用できない場合や法規制が存在しない場合、倫理が重要な役割を果たす」ということです。

倫理は、技術の可能性を引き出しつつ、過度な利用や行き過ぎを防ぐために制限を設ける役割を担う」という考え方です。

この考え方を保険会社や医療機関に適用すると、保険会社は事前承認の再申請の迅速化や、医療機関は、有保険者の患者さんが事前承認を拒否された場合や自費で治療を受ける際に、保険契約価格を適用し、節度を持って対応することが考えられます。

倫理教育の実践例：ケーススタディーの利用

米国では、大学生が社会に出る前に倫理の重要性を認識できるようなカリキュラムがあります。1990年代後半にイリノイ工科大学のマイケル・デイビス教授が考案した「セブン・ステップ・ガイド（倫理的思考のための7段階法）」を用い、実際の事件で不適切なデータに基づき問題が発生した事例を取り上げ、学生に倫理的な判断力を養うためのスキルを学ばせるものです。このアプローチは非常に効果的とされています。

医療分野においても、医療倫理に関する実際の事例を医療経営系の大学や専門学校、現役の医療経営者や事務系関係者の勉強会に取り入れることによって、医療現場での倫理的な判断力を高める一助となると考えます。

さいごに

これからも、医療分野では規制が追いつかない事態が引き続き発生する可能性があります。その際、倫理に関するカリキュラムや勉強会は、こうした問題に対処するうえで重要な役割を果たすのではないでしょうか。M